

中国地域ニュービジネス特別賞

表彰事業

酒蔵と共に、新しい切り口での「日本の酒」の需要を開拓

株式会社 酒商山田

代表取締役 やまだ じゅんじ
山田 淳二



受賞理由

平成13年に新築した本店は、木調で暖かさを演出し酒で彩りを加えるという「ギャラリー」的な発想からデザインされ、酒というモノを販売するのではなく、酒の知識を「智慧」に変え、喜びや感動、繁盛を売るという、今までにない酒店の取り組みとなっている。また、平成23年に開設した新店舗は、個人の顧客が落ち着いた雰囲気の中で、色とりどりのお酒のラベルと店舗スタッフによる酒にまつわる会話を楽しみながら、とっておきの1本を選んでいただく「サロン」的な発想でデザインされ、今後は、外国人に日本の酒の魅力を伝える場にもする予定である。このような取り組みにより、日本酒の需要がピーク時の三分の一と低迷している中で、20年間で日本酒の売上を約30倍、本格焼酎の売上を約60倍と伸ばしている。

[ポイント]

- ・飲食店に売り込みをしない、お客様に喜んでいただくことによりお店が繁盛してほしいとの経営姿勢が、全国からの取引依頼につながっている。
- ・全国1,100店を超える業務関係との取引で、飲食店の割合が7割を占め、現金販売で貸し倒れはない。
- ・小さな蔵の想いがいっぱい詰まった商品をお客様と一緒に育てるという方針で取り組んだ結果、日本酒と本格焼酎のアイテム数が4,800を超え、全国でも群を抜いている。
- ・付加価値の高い日本酒と本格焼酎に特化し、価格競争の激しいビール等は取り扱わない。
- ・新店舗は個人の顧客、特に女性をターゲットとし、日本の酒の販売だけでなく、多目的なスペースとして活用でき、勉強会、研修会、試飲会、パーティなども開催する。
- ・ユーストリームで、月1回40分間の生番組を新店舗から発信している。

事業概要

昭和6年、宇品にて酒類販売小売業山田商店として創業。その後、酒類販売の他、タバコ、コーヒー、進物販売等へと事業を拡大。現経営者が家業を継いでから、選択・集中・継続・徹底をキーワードに「日本の酒」を中核とする事業に転換。平成13年本店を現在地に新築し、取扱酒類のたね類を絞り、販売地域を広域化。平成17年法人化。平成22年には、日本酒と本格焼酎、小さな蔵のこだわりリキュールで売上の97%を占めるまでになり、全国でも類を見ない特徴的な酒店として注目される。創業80周年を機に平成23年12月、「サロン」をコンセプトに個人の顧客をターゲットとした新店舗を、広島市内中心部に开店。

推薦団体

自薦

会社所在地	〒734-0011 広島県広島市南区宇品海岸2丁目10-7		
T E L	082-251-1013	U R L	http://www.sake-japan.jp/
会社設立	平成17年7月(創業 昭和6年1月)	従業員数	16名(平成24年3月31日現在)
資本金	10百万円	売上高	582百万円(平成24年3月期)



本格焼酎コーナー

2001年オープンの宇品本店

本店外観



「店舗キャンパス」の発想で創った本店



酒屋としては珍しい2階がメイン店舗



ワインセラー



白のイメージの本店



日本酒コーナー



明るく開放的な店内

「独自」「独特」「独創」の発想で、
未来の酒庫を切り開く！

酒商山田は「経営の質」「社員の質」「商品の質」
三つの質で独自性ある酒屋を目指します。



「自己を磨き、人を育て、喜びと感動、繁盛を創る」
酒商山田の経営理念です。



酒商山田は、全国の醸造元や製造元150社と直接の取引を行い、4800アイテムを超えるお酒を取り扱っています。小さな蔵元の想いのこもった商品を、お客様や得意先様と時間をかけて育てていく・・・これが酒商山田の原点です。お酒の嫁入り先は、お客様の笑顔と共に広島から全国へと広がりを見せ、更に海外へと広がる状況になっています。お酒という「モノ」ではなく、「喜び」「感動」「旨さ」「繁盛」が私たちの商品なのです。接客はアナログ、経営はデジタル、「お酒とお酒の情報の宝庫」「世界への国酒の発信基地」が我々の目指すところです。



2011年12月オープンの鞆町店



13mの米国ハスマン社の冷蔵庫



黒のイメージの鞆町店



新コンセプトの酒屋を目指した 鞆町店 コンセプトは「サロン」